

# 生きものと友達に

いずみたく：作曲 インプリ科：作詞

一、出会ったみんな生きてる 生きているから歌うんだ  
 知り合ったみんな生きてる 生きているから踊るんだ  
 木の葉っぱを太陽に すかしてみれば  
 みんなの血潮と よく似た流れ  
 サクラだってカエデだって クスノキだって  
 みんなみんな仲間なんだ 友達なんだ

二、出会ったみんな地球の子 地球あるから生きてんだ  
 誰もがみんな光の子 光あるから生きてんだ  
 ちよつと出かけた公園や 河原や家の庭  
 どこでも出会える 生き物の世界  
 トンボだってカエルだって カマキリだって  
 みんなみんな仲間なんだ 友達なんだ

三、我らはみんな地球人 地球あるから生きてる  
 我らはみんな自然人 自然あるから生かされる  
 命ある者どうし 互いに見つめれば  
 見て聞いて触れ合って 感じる世界  
 アオキだってメダカだって タンポポだって  
 みんなみんな仲間なんだ 友達なんだ

## 【セミの歌声】

童謡の中にはメダカの学校、トンボのめがね、カエルの歌、チョウチョウ菜の葉に止まれなど、直ぐに思い出せますが、夏の風物詩を飾るセミを扱ったのが無いな～と感じていました。そこへ当時インプリ科に在籍していた野島和子さんが身近なセミ数種をあしらった作詞を見せてくれました。そこで軽快な曲を振り付けようと頭を回転し始めたところ、次々にメロディーが浮かびわずか1分足らずで出来上がりました。大阪近辺で身近に鳴き声を聞ける種は、ニイニゼミ・ヒグラシ・クマゼミ・アブラゼミ・ミンミンゼミ・ツクツクボウシの6種。これを6月から8月に掛けて地中から出て羽化する順に、セミの種類と出現順・鳴く時刻・場所をあしらい、野島さんの大まかな作詞を曲に合わせて補作し直して出来上がりました。

詞・曲に初めて出会う生徒も担当の先生が伴奏すれば、歌詞を書いたパネルを前に掲げると大声で歌ってくれました。

## セミの歌声

作詞 野島和子  
作曲 若尾隆一

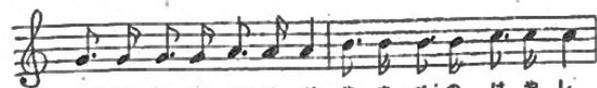
【軽快なリズムで】



もうすくなつだぼくらのきせつ  
 まぶしいひざしとかいのあさは  
 こうれはたまらんすずしいさとへ



ニイニイゼミがチー チー  
 クマゼミシャアシャ ワシワシ ワーシ  
 ミンミンゼミがミーン ミンミン



つづくはぼくだやまべのはやし  
 ひるまはまけじとアブラゼミ  
 ツクツクボウシがオーシン ツクツク



ヒグラシカナカナよあけとゆうべ  
 ジーリジリジリやけつくあつさ  
 まなつのいのちをせいっぱいに